

---

大分県豊後水道南部における定置網漁業の漁獲特性の統計的解析 行平 真也・真田 康広 .....	25
乾燥ワカメ表面の白い斑点 伊藤 龍星 .....	26
ローブ挟み込み養殖における部位別ヒジキ種苗の生長と生産量 伊藤 龍星・寺脇 利信・サトル シルゲルン・北村 等 .....	27
ノリ養殖漁場に飛来したカモ類の消化管内容物 伊藤 龍星 .....	28
アサリ資源回復にむけての人工転石帯の有効性 三代 和樹・福田 祐一・齋藤 肇・秋山 吉寛 .....	29

---

**FISHERIES RESEARCH DIVISION  
CONTENTS**

---

---

**Statistical Analysis on the Catch Characteristics of Stationary Net Fisheries  
in Southern Part of the Bungo Channel, Oita Prefecture**

MASAYA YUKIHIRA and YASUHIRO SANADA ..... 2 5

**Observations on the Cause of White Spots on the Surface  
of Dried Wakame, *Undaria pinnatifida***

RYUSEI ITO ..... 2 6

**Growth and Production of Hiziki on Culture Ropes Using Seedlings  
Obtained from Different Parts of the Wild Plant**

RYUSEI ITO, TOSHINOBU TERAWAKI,  
SATUITO SYRIL GLENN and HITOSHI KITAMURA ..... 2 7

**The Digestive Tract Contents of the Wild Ducks Flied Around  
the Nori Cultivation Farms**

RYUSEI ITO ..... 2 8

**The Effectiveness of Artificial Stony Shore for Recovery Resources  
of *Rudiapes philippinarum***

KAZUKI MISHIRO, YUICHI FUKUDA, HAJIME SAITO and YOSHIHIRO AKIYAMA ..... 2 9

---

---

# 大分県豊後水道南部における定置網漁業の漁獲特性の統計的解析

行平真也・真田康広

大分県農林水産研究指導センター水産研究部

## Statistical Analysis on the Catch Characteristics of Stationary Net Fisheries in Southern Part of the Bungo Channel, Oita Prefecture

MASAYA YUKIHIRA and YASUHIRO SANADA

### 要 旨

大分県豊後水道南部における定置網漁業の漁獲特性について、主成分分析を用いて解析した。漁場を変数として解析をした場合、第1主成分は「総漁獲量の大きさ」、第2主成分は「漁場の偏り」を表すと解釈される結果が得られた。第2主成分得点の絶対値が大きく、第1主成分得点も大きい魚種をその漁場の漁獲特性を示す魚種として整理したところ、鶴見漁場ではメジナ、米水津漁場ではカタクチイワシ、蒲江漁場ではブリ、キビナゴが挙げられた。また、年次を変数とした場合、第1主成分は「総漁獲量の大きさ」、第2主成分は「特異的な漁獲」を表すと解釈される結果が得られた。

# 乾燥ワカメ表面の白い斑点

伊藤龍星

大分県農林水産研究指導センター水産研究部浅海・内水面グループ

## Observations on the Cause of White Spots on the Surface of Dried Wakame, *Undaria pinnatifida*

RYUSEI ITO

### 要 旨

2009年3月下旬に大分県杵築市で採集され、素干し乾燥されたワカメの表面に、白い斑点を多数生じたものがあった。そこで、斑点の原因について調査した。

乾燥ワカメを海水に戻して顕微鏡観察したところ、藻体表面にある毛巣から伸長している毛に、大量のリクモフォラ属珪藻が付着していることが判明した。この珪藻が乾燥により白く変色し、斑点として見えたものと判断された。

# ロープ挟み込み養殖における部位別ヒジキ種苗の生長と生産量

伊藤龍星・寺脇利信\*・サトイト シリル グレン\*\*・北村 等\*\*

大分県農林水産研究指導センター水産研究部浅海・内水面グループ・

\*独立行政法人 水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所・\*\*長崎大学 水産学部

## Growth and Production of Hiziki on Culture Ropes Using Seedlings Obtained from Different Parts of the Wild Plant

RYUSEI ITO, TOSHINOBU TERAWAKI, SATUITO SYRIL GLENN and HITOSHI KITAMURA

### 要 旨

ヒジキのロープ挟み込み養殖に用いる種苗の部位別の生長および生産量について養殖試験を実施した。

2002年11月、天然群落から付着器ごと採取したヒジキを全藻体区、直立体区、上部藻体区、下部藻体区の4区にわけて養殖ロープに挟み込み、翌年6月まで養殖した。藻長は全藻体区が最も長く、直立体区、上部藻体区、下部藻体区の順で、主枝先端のない下部藻体区は他区に比べて有意に短かった。養殖ロープ1mあたりの生産量(湿)は全藻体区が9.0kgと最も多く、ついで直立体区7.3kg(全藻体区の81%)、上部藻体区6.7kg(同74%)、下部藻体区5.2kg(同58%)であった。全藻体を使用して養殖をすることが、生産量の面でも作業労力の面からも最も有効と思われた。

# ノリ養殖漁場に飛来したカモ類の消化管内容物

伊藤龍星

大分県農林水産研究指導センター水産研究部浅海・内水面グループ

## The Digestive Tract Contents of the Wild Ducks Flied Around the Nori Cultivation Farms

RYUSEI ITO

### 要 旨

大分県豊後高田市と中津市千潟域の支柱式ノリ養殖漁場において、2007、2008年の秋冬季にカモ類5種（マガモ、カルガモ、オナガガモ、ヒドリガモ、コガモ）計10個体を捕獲し、消化管内容物を調査した。

マガモ2個体の消化管からは、それぞれフトコロガイ科の貝10個、コアマモ葉片0.46gが、カルガモからはコアマモ地下茎が、オナガガモからはホトトギスガイ7個が確認された。また、海岸で採集された糞からはコアマモ葉片が多数確認された。これらの生物はカモ類の餌として普通に利用されていると思われる。しかし、消化管および糞中にノリ葉体は認められなかった。当該地域の2008、2009年のカモ類生息数は2007年の2.5～3.3倍に増加していた。

# アサリ資源回復にむけての人工転石帯の有効性

三代和樹・福田祐一・齊籐肇\*・秋山吉寛\*\*

大分県農林水産研究指導センター水産研究部浅海・内水面グループ・

\*独立行政法人 水産総合研究センター 水産工学研究所・\*\*名古屋大学大学院 環境学研究科

## The Effectiveness of Artificial Stony Shore for Recovery Resources of *Ruditapes philippinarum*

KAZUKI MISHIRO, YUICHI FUKUDA, HAJIME SAITO and YOSHIHIRO AKIYAMA

### 要 旨

かつて大分県は日本で一番のアサリ漁獲量を誇っていた。しかし、1980年の後半からその漁獲量は減少し、現在ではその漁獲量はほとんどない。このような現状の中ではあるが、少ないながらも、転石帯は砂質帯に比べてアサリの生き残りが良いと言われている。そこで、中津市小祝地先に人工的に造成された転石帯と、隣接する砂質帯において、アサリ着底稚貝量や粒度組成について比較調査を行った。

その結果、人工転石帯はアサリの生息に適した底質の粒径を維持しており、砂質帯に比べて多くのアサリ初期着底稚貝が生息していることが明らかとなった。